

(公財) 地震予知総合研究振興会
長岡平野西縁断層帯の活動性評価に関する研究委員会 (第7回)

概要報告

1. 日 時 平成25年3月4日 (月) 13:30~17:00

2. 出席者

主査	東北大学	名誉教授	長谷川 昭
委員	東京大学	名誉教授	阿部 勝征
	産業技術総合研究所		阿部 信太郎
	長岡技術科学大学	教授	大塚 悟
	防災科学技術研究所		岡田 義光
	東京大学地震研究所	教授	小原 一成
	東京大学	名誉教授	金沢 敏彦
	日本大学総合科学研究所	教授	工藤 一嘉
	東京大学地震研究所	准教授	酒井 慎一
	名古屋大学	教授	鷺谷 威
	防災科学技術研究所		関口 渉次
	東京大学地震研究所	教授	平田 直
	株式会社ホームサイスマメータ		堀内 茂木
	顧問	東北大学	名誉教授
(公財) 地震予知総合研究振興会会長			高木 章雄
事務局	(公財) 地震予知総合研究振興会		

(敬称略)

3. 議第

- (1) 平成24年度の活動報告
- (2) 信越地域の震源断層モデル

4. 委員会の状況

平成24年度の活動報告として①平成24年度報告書の概要、②地震活動状況等について、③自動震源決定の改良について、④GPS観測結果等について、⑤連続観測記録に基づく長岡深部S波速度構造の推定について説明があったのち、信越地域の震源断層モデルに関する検討について紹介があった。

(1) 平成24年度の活動報告

平成24年度の活動報告が行われた。

- ① 平成24年度報告書（案）について、事務局より説明があり、委員会でその内容が確認された。
- ② 本検討で整備した稠密地震観測網（AN-net）の維持管理状況および地震活動状況の説明が行われ、委員会では、トモグラフィ解析結果と震源分布の関係等について意見交換が行われた。
- ③ 自動処理システムにおける震源決定に関して、精度向上に向けた検討状況について説明が行われた。委員会では、処理内容について意見交換が行われるとともに、改良の効果が認識されるにいった。
- ④ GPS観測結果等について、観測網の維持管理状況及びデータ処理の状況について説明がなされた。データ処理においては米国のGPSのみならずロシアのGLONASSも組み合わせた解析により精度が向上した事例が紹介された。また、委員会では、地震時と地震後で変位変化の特徴について議論となったが、より観測データを蓄積した検討が必要であるとの認識にいった。
- ⑤ AN-netの上下動記録を用いて、深いS波速度構造の推定を試みた結果について説明が行われた。委員会では、他の解析手法の適用性、他データとの比較について意見交換が行われた。

(2) 信越地域の震源断層モデルに関する検討

信越地域の震源断層モデルに関する検討について紹介があった。委員会では、世界的にみた検討事例の有無など意見交換が行われた。

以上